

まえがわ

(古典音楽の繁栄のために)

沖縄の古典音楽は素晴らしいものです。素晴らしい元は、楽器の音と共に歌つ沖縄語による歌詞にあります。ところが、歌詞の書き方が独特なため、文字通り読んでは沖縄語にならず、沖縄語として正しく読むには、師匠から特別の訓練を受けなければなりません。この伝承法は長い間続いています。

現代の日本人は、日本語を文字通り読む教育を受けており、それに慣れきっています。そのため、独特的な書き方の沖縄語を正しく読むのは、学習者にとって大きな負担です。学習者が古典音楽に魅力を感じて入門し、あるいは親しもうとしても、歌詞の難読の壁に阻まれ、敬遠して次第に古典音楽から離れるようになつては、古典音楽は衰退します。それがもし将来も続けば古典音楽は亡びます。これを防ぎ、古典音楽を保存し、繁栄を図るにはどうすればよいでしょうか。本研究による歌詞の現代的表記がそれに対する一つの答えです。歌詞の解説は他書に譲るとして、これにより、古典音楽の歌詞は誰にでも容易に正しく読めるようになります。古典音楽が一層身近に感じられるようになるでしょう。

(琉歌に親しむために)

古典音楽の歌詞の多くは味わいの深い琉歌であり、節をつけて歌われるばかりでなく、朗読して鑑賞することが多いのも、琉歌に魅力があるからにほかなりません。本研究の結果は朗読にも適しています。

(研究の目的)

研究の目的は、従来の伝統的書法による沖縄の古典音楽の歌詞を、音声に忠実に現代仮名遣いによつて書き表すことです。歌詞の解説はしません。

(使う文字)

沖縄語の音で日本語にもある音は日本語の文字を使います。沖縄語の音で日本語にないものを、日本語の文字で表すことは元々無理です。それらの音を一字で忠実に表すには沖縄文字が必要です。沖縄文字を覚えるのは小学生が平仮名

を覚えるのと同様、至つて簡単です。覚えやすいものから少しずつ覚えましょう。沖縄文字の一覧表は巻末にあります。

(教育向け書法の意義)

本研究の歌詞の書法は、日本語の現代仮名遣いに整合させることによって、沖縄語の教育において学習者の学習負担を最小限にし、学力の向上を期待するものです。その意味で現代仮名遣いは、話し言葉の書き方とも一貫し、沖縄語の理解に役立つことと思います。

旧仮名遣いあるいは歴史的仮名遣いは、歴史的検討あるいは學問的研究において用いられるのが適切であると思います。

(誰が書いても同じ書き方に)

沖縄語の書法の現状は不統一を極め、多くの人が迷っています。沖縄語の教育の上からは、同じ意味の言葉は誰が書いても同じ書き方になる必要があります。

(研究の対象)

伝統的表記の原典は「聲楽譜附工工四名卷」(野村流師範伊差川世瑞、世礼国男、野村流音楽協会、上巻昭和四十六年、中巻平成十六年、下巻昭和四十六年、続巻平成十八年)から延べ百十八節歌を選んで研究の対象としました。

(新旧表記の対比)

本研究では、原典の歌詞の書き方を「伝統的表記例」としました。現代的表記では、音声は原典の工工四の標音に従い、現代仮名遣いにしたもののです。このことは伝統的表記を軽視するものではありません。

現代的表記では、文字通り読めば沖縄語になります。なお、原典と他文献の音声の主な違いは後註にまとめました。

(謝辞)

研究に当たり、古典音楽の関係者から資料の提供や助言など、研究への協力を賜りましたことを深く感謝いたします。

(執筆分担)

歌詞は主に國吉が、その他の部分は主に船津が担当し、共同して全体を推敲しました。